



さいとう よしひこ 齋藤 好彦 議員

災害ボランティアの 受入れ体制は

円滑な設置・運営にむけ準備をする



ボランティアによる復旧支援

【質問】 本町では、これまでの経験を教訓に、防災センター、福祉避難所等の整備を行い災害時に備えています。大災害が発生し被災者に対する救援活動が必要になった場合の重要な役割を担う「災害ボランティア」の受入れ体制の構築も必要であると考えます。町長の考えを伺います。

【町長】 ボランティアセンターの設置・運営について、舟形町地域防災計画では、町と社会福祉協議会が連携して行うこととされています。実際に両者で被災地のボランティアセンターの運営の状況確認やボランティア作業の実施及び想定した研修なども行っています。今後は、ボランティアの受入れ、被災者の状況及びニーズの把握、被災場所への派遣人数調整、ボランティア活動への支援など

【質問】 年々、人口減少・高齢化等により鳥獣対策を行うための意欲や労力が減退していきなかつた町では特措法に基づき猟友会の協力のもと対策を講じていますが、被害の減少に至っていないのが現実であります。これまでの鳥獣対策の現状と課題を整理し、抜本的な対策が必要であると考えます。町長の考えを伺います。

【町長】 本町の鳥獣対策は、特措法による舟形町鳥獣被害対策実施隊及び舟形町鳥獣被害防止対策協議会を平成29年度に設立し

てから、現状と課題を整理しながら協議を重ねてきました。その結果、令和2年度に新たな取り組みについて、着手したところですが、環境整備、具体的には、研修会や広報において対策の基本的な考え方を知らせてきました。環境整備、防除、捕獲の3つの取り組みです。これらを実施していくためには、住民への普及啓発が必要であり、座談会の開催をはじめとして、電気柵の導入補助事業や設置講習、広報を使った情報提供について今年度も継続して実施します。



即効性のある電気柵による対策



防災センターでの会議

で、舟形町地域防災計画では、町と社会福祉協議会が連携して行うこととされています。実際に両者で被災地のボランティアセンターの運営の状況確認やボランティア作業の実施及び想定した研修なども行っています。今後は、ボランティアの受入れ、被災者の状況及びニーズの把握、被災場所への派遣人数調整、ボランティア活動への支援など

【町長】 富長交流センターは、富長地域における住民のコミュニティ活動を支援し、地域文化及び産業振興、社会福祉の増進

を目的に設置しており、2階3階の交流室等を貸出しております。ご指摘いただいた相撲場やプールの老朽化は著しいため、今後、適時撤去してまいります。今後の利活用について

では想定しておりませんが、例えば企業や工場などへの貸与については、内容にもよりますが希望があれば検討してまいります。どのような使い方がよいのかご意見をいただきながら検討を進めてまいります。



いしやま かずはる 石山 和春 議員

防災拠点施設の 平時の活用状況は

町主催の会議に使用

【質問】 防災拠点施設は、地震、異常気象による豪雨災害等に対処するため市民の生命、財産を守る司令塔として立派に完成しました。

な活用をしているのか伺います。

【町長】 防災拠点施設は、役場庁舎の一部という位置づけです。本庁舎や第2庁舎と同じように行政事務を行う施設として活用しています。

【質問】 富長交流センターの管理、活用は地域の方と一緒に検討を進める

災害対策の拠点施設として大きな役割を担っておりますが災害のない施設であってほしいと願っております。平時はどのような

1階部分では、災害用品の備蓄庫、選挙時に期日前投票所の設置、保健センターの改修に伴うデジタルファースト推進室の執務室、公用車の駐車場としており、2階部分は最上管内の危機管理担当者会議や消防団、消防委員会などの防災関係にかかわらず、職員のウェブ会議や職員研修、全課にわたり町主催の会議等に使用しています。

【質問】 富長交流センターは、現在、農林水産物加工施設、ふるさと納税返礼品業務として、町振興公社が入っております。校舎は、屋根の改修塗装工事を行いました。プール、相撲場は統合時のままになっております。特にプールの荒廃はひどく対策を取るべきと考えますが町長の考えを伺います。



荒廃が進むプール